

山口県高文連 30周年を記念してシンボルマークを制定しました



原作者 山口県立徳山高等学校 2年 住田 育実(すみだ いくみ) ※平成28年度

色番号 緑「PANTONE P 142-8 C」 オレンジ「CF 10144*」

内容 このマークは、緑色の部分が山口(YAMAGUCHI)の「Y」、オレンジ色の部分はローマ字の「i」、つまり「私」を表しています。そして、Yとiを組み合わせると文化の「文」になっています。それによって、「山口で私が文化を盛り上げる」ということを示します。他の人に頼るのではなく、まず自分が山口県の文化活動を盛り上げていけるように主体的・積極的に活動するという意味を込めました。そのような思いを持つ人が集まると、より良いものをつくっていけると思います。また、このマークは同時に高校生の躍動感のある姿も表しています。手の部分からはしなやかさや柔軟性、足の部分からは力強さを感じられるようにしました。このように、1つのマークに複数の意味がありますが、それには1つのものに色々な意味があるように、様々な個性を持った高校生が集まって、一人一人の個性を発揮しつつ力を合わせて、演奏であったり作品であったり、1つの大きな「形」を作り上げていければ、という思いを込めました。色についてですが、オレンジは萩の夏みかんや周防大島のみかんといった特産品や山口県特有のオレンジのガードレールなど、山口を連想させることができるように用いました。緑は山口の豊かな自然を表しています。それに加えて、高校生の姿という視点から見て、オレンジは情熱、緑は爽やかさをイメージし、高校生ならではの若々しさを表現しました。

審査概要 応募総数 13校263点

審査結果 最優秀賞 山口県立徳山高等学校 2年 住田 育実
優秀賞 山口県立防府商業高等学校 3年 藤山 静香
山口県立徳山高等学校 1年 梶原 みうな

審査員 吉本 晃(山口県高等学校文化連盟 会長)
福田 隆眞(国立大学法人 山口大学 理事・副学長)
斎藤 郁夫(山口県立美術館 副館長)
濱崎 洋(山口県高等学校文化連盟 美術・工芸専門部 理事長)
中村 三雄(山口市立大殿中学校 教諭)